

氏名(本籍)	叔 ^{しゆく}	森 ^{みよー}	(中国)
学位の種類	博士(医学)		
学位記番号	博甲第6269号		
学位授与年月日	平成24年3月23日		
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当		
審査研究科	人間総合科学研究科		
学位論文題目	60歳以上の人における心血管疾患危険因子と肥満、高感度CRP濃度の関係		
主査	筑波大学教授	博士(医学)	曾根博仁
副査	筑波大学教授	医学博士	鯉坂隆一
副査	筑波大学教授	医学博士	久賀圭祐
副査	筑波大学講師	博士(体育科学)	前田清司

論文の内容の要旨

(目的)

本論文は、60歳以上の日本人において、心血管疾患のリスクと管理に強く影響する古典的危険因子である肥満の適切な指標とカットオフ値を検討すること、また新たな予測因子として用いられる高感度CRP濃度の予測因子の妥当性とそのカットオフ値を検討したものである。

(対象と方法)

60歳以上の251名(うち男性91名、平均年齢69.5歳±5.2歳)において、体格指数(BMI)、ウエスト(WC)、ウエストヒップ比(WHR)、ウエスト身長比(WHtR)、総脂肪量(TFA)、内臓脂肪量(VFA)、皮下脂肪量(SFA)、血圧を測定し、採血検査を実施した。高血圧、糖尿病、脂質異常症の病歴を調査し、修正AHA/NHLBI基準による心血管疾患危険因子およびメタボリックシンドローム構成因子の保有状況について調査した。解析は男女別に行った。

(結果)

結果として、肥満は肥満以外の心血管疾患危険因子と有意に関連し、肥満指標(BMI、WC、WHR、WHtR、TFA、VFA、SFA)のうち全体と女性ではWC、男性ではBMIが心血管疾患危険因子の2個以上の保有都最も強く関係していた。WCのカットオフ値は男性では85.5cm、女性では75.5cmであった。BMIのカットオフ値は男性では23.5kg/m²、女性では24kg/m²であった。高感度CRP濃度とメタボリックシンドローム、肥満とは全体と女性では有意に関連した。複数の肥満指標(BMI、WC、TFA、VFA、SFA)のうち、高感度CRP濃度と最も強く相関したのはBMIであった。メタボリックシンドローム診断に対する高感度CRPのカットオフ値は男性では0.43mg/L、女性では0.45mg/Lであった。

(考察)

これらの結果より、肥満は幅広い年代において死亡や様々な疾患の危険因子であるが、その影響は高齢になるほど低下することが判明した。同様に高齢者では高感度CRP濃度とメタボリックシンドロームの関連が弱まることが明らかになり、高齢者における肥満の判定や意義が若年者とは異なる可能性が示唆された。

審 査 の 結 果 の 要 旨

平成 24 年 1 月 11 日、学位論文審査委員会において、審査委員全員出席のもと論文について説明を求め、関連事項について質疑応答を行い、最終試験を行った。その結果、審査委員全員が合格と判定した。

よって、著者は博士（医学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。